



時に甚大な被害を生む豪雨・地震などの災害。防災の意識が高まる中、地域の避難訓練のお知らせを目にしても、幼少の障害児を連れての参加を考えるとついつい遠慮してしまうという方は多いのではないのでしょうか。

今回はそんな防災についての第一歩。ひまわり園で横須賀市市民安全部・福祉部をお招きして『災害時要援護者支援プラン』の出前トークを開催しました。このダイジェスト版と合わせてサイト版もご覧ください！



開催報告 万能ではないけれど、共助の第一歩！

2017.07.07 @ひまわり園

出前トーク『教えて！災害時要援護者支援プランについて』

■実は身近な防災対策『災害時要援護者支援プラン』

2004年に新潟・福島・福井を襲い、21名の死者行方不明者を出した豪雨災害。そのうち17名が65歳以上の高齢者でした。この被害の反省から作られたのが『災害時要援護者支援プラン』です。

翌2005年3月、内閣府が『災害時要援護者の避難支援ガイドライン』を作成。2013年6月には災害対策基本法が改正されて法律に位置づけられました。

横須賀市はガイドラインが出された約2年後の2007年5月に防災部局と福祉部局で検討を開始し、翌2008年には横須賀市災害時要援護者支援プランを策定しています。

■防災と減災。キーワードは『自助・共助・公助』

例えば、阪神淡路大震災の時には水道管が破損して、消火活動ができなかったり、地震発生直後に大きな火災や建物の倒壊が発生したり、また豪雨の時には、浸水が起こったり…

こうした被害に備えて、がけを工事したり堤防を作ったりする『防災』には時間もお金もかかります。また、災害発生時には救助の手が一人一人になかなか届かないことも多いということ踏まえて、被害を少なくする努力、いわゆる『減災』にむけた『自助・共助・公助』の取り組みが重要だと考えられています。

地域においてお互いに助け合う。特に、災害直後は地域におけるお互いの助け合いがとても大事。

自助 自分自身で守る
減災
共助 自助・共助・公助
公助

行政機関が市民等の安全を確保する。大規模災害のときは数日経ってからの行政機関が機能していくことが多い。

■登録カードを提出するとどうなるの？

- 1 登録申込をすると市役所が情報を整理
市役所が町内会・自治会ごとに名簿を作成し、地域（民生委員や児童委員含む）に配布。
- 2 支援者（町内会長・自治会長・民生委員等）が要援護者個別訪問。状況の聞き取りを行い、個別の支援を組み立てていく。

以上がマニュアルに記されている基本的な登録の流れで、当初は市もマニュアル通りに進めてほしいと町内会・自治会に呼びかけてきました。しかし…

■横須賀ならではの運用の難しさ『可能な範囲の支援』

実際は、例えば、高齢化により支援者の数が足りない、山の中で車も入れないので支援が難しいなど横須賀市の町内会・自治会はそれぞれに色々な事情を抱えていました。そこで、市としては、統一的に支援プランを進めていくことは無理だろうと判断。とにかく安否確認だけはお願いしたいとしつつ、それ以外はその町内会の実情に合った可能な範囲でのプランの運用をお願いするかたちをとっています。つまり、これに登録することで災害時に必ず支援が受けられる万能なものではないというのが現状です。

■登録するうえでの注意点。登録＝万全ではない

- ①登録後、名簿として自治体に届いているかは要確認
受け取ることを了承くださった町内会・自治会に名簿をお配りしています。つまり、受け取りが進んでいない町内会・自治会に登録をされても、登録情報が届かないという状況があります。
- ②登録＝災害時に必ず支援が受けられるというものではない
これはあくまでも共助の一環、取り組みは地域によって様々なので万全の支援が受けられるものではないことをご理解ください。
- ③自らも共助のために連携作りに参加！
地域における防災活動（防災訓練・避難訓練）には積極的に参加してください。登録したら終わりというのではなく、日ごろから顔の見える関係づくりを作っていく努力をお願いします。

■目にしてるかも？『災害時要援護者支援登録カード』

この登録カード。実は、幼少の障害児を育てる私たちにも関わりがあるんです。そう、療育手帳の書類に同封されてくることが多いのですが、災害時要援護者支援対象者の範囲は以下の通り。

- ①高齢福祉課にひとり暮らし高齢者として登録している方
- ②重度障害者等（身体障害者等級が1-2級の人・知的障害の人・精神障害等級が1級の人）
- ③要介護支援認定者（要介護3-5の人）
- ④その他市長が認める人（状況を福祉部の方で勘案して上記1-3までに該当しなくても、要援護者登録の必要があると認めた方。具体的には高齢者世帯の方が多くを占めています）

【参加者質問】子どもはまだ小さい上に、障害があつてバタバタ。行ったほうが良いとは思いますが、地域の避難訓練に出るのはプレッシャーに…



地域の状況によっても、みなさんのお気持ちも難しいと思うんですが、災害時に地域の協力を得るためには、地域の方々にご自分の状況を知ってもらわないといけないと思うんですね。災害が起こった時に、「私は登録しているから助けて！」と主張してもなかなか難しいと思います。まずは知ってもらうために、防災訓練に限らなくてもいいと思います。地域の活動やコミュニケーションが取れる機会があれば参加して、皆さんの状況を知ってもらうことが大切だと思います。